

平成30年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 有功小学校
校長氏名	大橋 はるみ
作成日	平成 31年 2月 14日

1 教育目標

未来を生きぬく子の育成
～やさしい子・学ぶ子・たくましい子～

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	食に関する教育の推進	地域とともにある学校
指標	・県学力到達度調査で正答率が県平均を上回る。 ・「学校は子供に分かりやすい授業を工夫している」昨年度91%。今年度もそれを上回る。	・学校が楽しいと感じる(低学年児童91%・高学年児童96%)目標 ・いじめ解消率100%	・朝ごはんを食べた(児童100%) ・生活リズムチェックで個々の達成率を1回目より上げる	・学校の様子がよく伝わった(昨年度保護者83%)を85%に
重点目標 【P】	・基礎・基本の定着 ・子供主体のわかる授業の推進 ・家庭学習の定着 ・読書活動の推進	・道徳・人権教育の充実 ・いじめアンケートで早期発見・早期対応・未然防止 ・情報モラル教育の推進 ・体験活動を充実させ、豊かな感性を育む。	・自ら望ましい食生活について考え、健康的な生活を送る。基本的な生活習慣の確立 ・「食と健康」の研究発表会の取組 ・食育に関わる地域・人・関係機関の活用	・保護者・地域との連携充実 ・地域や保護者の積極的な人材活用 ・学校通信の発行
取組の状況 【D】	・「和歌山の授業づくり」の定着見直しを取り入れた授業の工夫 ・課題を明確に、共に学び書くことを通した学びを取り入れた。 ・「有功タイム」「放課後学習」「漢字博士」に取り組んだ。 ・図書室の充実と読み聞かせを行った。	・道徳の校内研究授業を行い、授業力向上を図った。 ・いじめアンケートを年間3回実施し、早期発見、子供の実態をみとった。 ・外部講師を招き、情報モラル教育を実施した。 ・ペア学年の交流・体験活動を通しての仲間作りを行った。	・生活リズムチェックを年3回実施し、生活習慣の見直しを図った。 ・「食と健康」の研究発表会を行い、他校から多くの先生たちに本校の取り組みを知ってもらい食育の重要性について協議した。	・各種便り・HP等を通して積極的に学校の情報を発信すると共に授業や行事等の公開を行った。 ・長寿会との交流・独居老人とのふれあい会・ふれあいまつり・有功音頭など地域行事に参加し交流できた。 ・民生・児童委員会に協力してもらい授業の手伝いをして頂いた。 ・園部公園の清掃活動を年間12回実施した。
取組の成果と課題(評価結果) 【C】	・和歌山の授業づくりについては、定着し、保護者アンケートのわかりやすい授業の工夫ができていて、91%と高評価であった。 ・書くことの取り組みから3年、全国学力テストで全国平均を国語Bで7P上回ることができ、書く力がついてきた。また、県学力テストでも4・5年共すべての教科で県平均を上回ることができた。 ・充実した図書室になり、読み聞かせの回数も増えた。	・道徳の授業を公開することで、授業力向上と子供たちの人権感覚の育成につながった。 ・情報モラルについて、早い段階から指導を行うことは、人権を大切にすることにつながった。 ・学校行事等を通して、仲間の大切さや思いやる気持ちを育てる機会を作った。 ・アンケート「学校が楽しい」は90%友達と仲良くしている」は97%であった。	・「食と健康」をテーマに総合的な学習の時間や生活科、学活等で実践を行い、子供たちが自ら考え実践する力をつけた。 ・生活リズムチェックで早寝・早起き・朝ごはんの重要性の意識付けを図った。	・HPはできる限りタイムリーに更新してきた。 ・総合的な学習では、地域との関わりを大切にしたり取り組みを行ってきた民生委員や長寿会会員の協力を得て、授業にも関わってもらうことができ、子供たちに良い影響を与えていた。 ・「学校の様子がよく分かった」のアンケートの項目では、目標の85%を達成することができた。
改善方法 【A】	・すべての教科を通して書く力をつける取り組みは、今後も継続して行う。 ・図書ボランティアと協力しながら、図書室の常時開放と図書室での調べ学習の活用を増やす。 ・家庭学習のための保護者への啓発と取り組みをさらに進める。	今後もどの子にとっても学校が居心地のよい場になるような環境作りと集団作りをめざしていく。 ・さらなる道徳教育の推進を図る。	・朝ごはんを食べた児童100%は達成はできなかったもので、今後も保護者への啓発を含め、食の大切さについて取り組んでいく。 ・「食と健康」の研究を継続し、さらなる食育の推進を図る。	今後も積極的に学校の様子を地域や保護者に発信していきたい。来年度も「学校の様子がよくわかった」85%の好意的評価をめざしたい。

3 その他の課題

本校のある地域は、中学校区(小学校3校・中学校1校)を一つの組織として主な活動が行われている。そのため、本校は、中学校や他の小学校と常に連絡を取りながら、地域の力を借り教育活動を実施してきた。地域との連携をスムーズに進めるためには、複数校で一つのコミュニティスクールを設置をする方が、地域としても協力体制が取りやすいと考えている。

保護者アンケートで一番多く要望があったのは、トイレの改修についてであった。できる限り早い段階で改修ができるように行政に働きかけていきたい。学校施設の老朽化(プールの床のタイル剥がれの修理・汲み取りトイレの撤去・不審者侵入予防のためのオートロック門の設置等)の課題があり、合わせて要望を出していきたい。